

プロフィール

平成12年生まれ。創価大学4年生。小学5年生の頃に「しずおか市町対抗駅伝」に出場したことがきっかけで、陸上を始める。中学・高校と陸上部に所属し、箱根駅伝の走者となることを目標に創価大学へ進学。今年1月に開催された、「第99回東京箱根間往復大学駅伝競走」で往路1区の走者となり、21.3kmを1時間3分2秒、区間5位でたすきをつなぐ力走をみせました。



▲2月7日に長谷川市長を表敬訪問し、記録を報告しました。

箱根駅伝で往路1区を総合5位で駆け抜ける!

か いや

横山 魁哉さん

(白岩下)



最後のチャンスでつかんだ夢

大学4年目でやっとつかんだ最初で最後の箱根駅伝。箱根駅伝を走るために大学に進学したと話す横山さんは、選手に選ばれた時の心境を、「本当にうれしかったです。やってやるぞという気持ちと、選ばれなかった他の同級生の分もがんばるぞという気持ちでした」と振り返ります。選手になってからも、「走ること、これまで応援してくれた人に恩返しができるように」との思いで日々練習を重ね、夢の箱根路に挑みました。

粘り強く自分の走りを書く

「スタートラインに立った時から区間賞を狙っていました」と当日の心境を話す横山さん。走っている最中はレース展開を意識し、「ハイペースなレースにならず、集団の中で一定のテンポを維持するように心がけました。途中で飛び出した選手がいまいましたが、焦らず、自分の得意な終盤に仕掛けようとして決めて、集団の中にいました」と振り返ります。「粘り強さだけは誰にも負けないつもりです。箱根で

も粘り強さは発揮できたと思います」と自分の走りを書き、総合5位、トップとの差も18秒以内という好成绩でたすきをつなぐことができました。横山さんは、「地元への応援が力になりました。応援に込めるような走りが出て、走り終えた後は安心してました」と地元への感謝を口にしました。

これからも挑戦は続く

箱根駅伝出場という大きな夢を叶えた横山さん。4月からは実業団に入り競技生活が続けるそうです。「日本選手権に出るのが目標なので、まずは標準記録を上回ることを目指してがんばります」と、すでに新たな目標に向けて走り出しています。

「大きな目標のためには、小さな目標を1つずつ達成していくことが大切です。自分もその繰り返しで箱根駅伝という目標を達成することができました。何かの目標があって、その目標が今は遠いかもありません。ですが、焦らずに努力を続けていけば、きっと少しずつ近づいてくると信じています」と語ってくれました。

周囲の人も応援してくれるので、悔いのないようにやり切りたい

横山さんが中学1年生の時に陸上部の顧問をしていました。走る事が大好きで、県レベルでも戦える実力はあると思っていました。ただ、入部したての頃は陸上を本格的に始めたばかりで、まだまだ粗削りな印象でした。その後、先輩や地域の人からも好かれ、多くの人との関わりの中で強みを伸ばしていった結果が、箱根駅伝出場につながったのだと思います。

私もテレビの前から応援していましたが、我慢強い走りができるようになっていきました。実業団に入っても、まだまだ伸びると思っています。今後も挑戦を続ける限り、周りの人もきっと応援してくれるので、悔いのないようにやり切りたいです。私も活躍を楽しみにしています。



中学時代の恩師  
高塚 和弘先生